

第3章 基本計画

5. 安全・安心な生活



防犯・防災

5. 安全・安心な生活

防犯・防災

①交通安全対策の充実

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

交通事故死者数ゼロ

子どもや高齢者等が安心して通行できる道路の整備を進め、地域や行政、関係機関が一体となって連携し、様々な交通安全対策に取り組めます。

■ 現 状

- 近年では交通死亡事故が減少傾向であったものの、2019（R1）年（1月～12月）は増加し人口10万人以上の都市で、10万人当たりの交通事故死者数ワースト1位となっています。
- 市民意識調査によると、41.6%の市民が「交通マナーが悪い」と思っています。
- 直近5年間の交通事故死者の約6割が高齢者です。

■ 課 題

- 交通事故撲滅に向け、効果的な交通環境の整備が必要です。
- 地域と連携し、地域の状況に応じた、交通安全対策が必要です。
- 交通ルールの遵守と交通マナーの向上を図る必要があります。

■ 主な取組

- 交通事故が多発している道路や交差点における区画線の引き直し等、道路の安全性を高める整備を進めます。
- 交通ルールの遵守と交通マナーの向上を推進する啓発活動を実施していきます。
- 地域と連携しながら全ての年代に対し、その年代に応じた交通安全教育及び対策を実施していきます。

New!! 高齢ドライバー向けの安全運転講習を実施していきます。

■ 関連計画

- 松阪市通学路交通安全プログラム

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
交通事故死傷者数(1月～12月)	334人	289人	
交通マナーが悪いと感じる市民の割合	41.6%	30.0%	
交通安全対策の整備に対する市民満足度	2.55／5	2.70／5	

市民ができること

- ◆ 地域の道路事情をよく理解し、自主的な交通安全対策に取り組みましょう。
- ◆ 交通安全教育指導員「とまとーず」による交通安全教室に積極的に参加しましょう。

5. 安全・安心な生活
防犯・防災

②防犯対策と消費者保護の充実

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

犯罪・悪質商法による被害者数ゼロ

松阪市の刑法犯認知件数は減少傾向にあるものの、自転車盗など身近な犯罪は、依然として発生していることから、今後も地域や関係団体と連携した防犯対策を進めます。また、近年増加している悪質商法については消費生活相談の充実・強化により持続的な消費者啓発を行うなど、被害件数の減少に取り組めます。

■ 現 状

- 刑法犯認知件数のうち大半が自転車盗、空き巣などの身近な窃盗犯です。
- 特殊詐欺被害も減少傾向ですが手口は巧妙になり依然として発生しています。
- 複雑かつ巧妙化する悪質商法による消費者被害、消費者トラブルが増加しています。
- 消費者被害、消費者トラブルに関する知識、情報共有が十分ではありません。

■ 課 題

- 地域で子どもや高齢者などを見守るための体制や環境づくりが必要です。
- 「自分のまちは自分で守る」という意識のもと、地域の安全が守られる地域づくりが必要です。
- 市民の消費者意識の向上、消費者被害情報の共有、相談体制の充実・強化が必要です。

■ 主な取組

- 防犯カメラの設置費用等を補助し、地域の防犯や治安の向上を図ります。
- 犯罪被害者等に対し、関係機関と連携し支援を実施します。
- 防犯意識の向上に取り組み、地域や関係団体とともに防犯対策を進めます。
- 消費生活センターの情報提供や相談体制の充実・強化に取り組めます。

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
刑法犯認知件数(自転車盗)(1月～12月)	165件	130件	↓
特殊詐欺件数(1月～12月)	7件	5件	↓
消費生活センター相談件数	1,266件	1,350件	↑
消費生活センター解決度	98.6%	99%	↑

市民ができること

- ◆ 学校、保護者、地域などとの協働による地域ふれあいタウンウォッチングを開催しましょう。
- ◆ 自主防犯パトロール活動を積極的に行い、地域の犯罪抑止に努めましょう。
- ◆ 身近な人と情報共有することにより地域全体で消費者被害を防ぎましょう。

■ 超高齢社会に向けた視点

- 複雑かつ巧妙化する悪質商法等に十分理解、対応することが困難な高齢者に対して、情報提供や相談体制の充実・強化が必要です。

5. 安全・安心な生活

防犯・防災

③防災・危機管理対策の充実

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

災害による犠牲者ゼロ

持続的防災啓発と地域の防災体制の強化を行い、「自助」と「共助」の意識を高めるとともに、計画的な防災対策により、災害に強い安全なまちづくりを進め、災害時の人的被害ゼロをめざします。

■ 現 状

- 自然災害や武力攻撃・テロなど、様々な災害リスクが高まっています。
- 市民の災害への関心は高まっているものの、実行がともなっていない状況です。
- 「共助」への気運が高まり、地域での自主防災活動が活発に行われています。

■ 課 題

- 災害による被害を最小限に抑えるため、市民の防災意識の高揚と防災対策が求められます。
- 地域の「共助」に向けた防災体制の更なる充実が求められています。
- 市民が的確に避難でき、安全で安心な避難所運営ができるよう、施設毎の避難所運営マニュアル等が必要です。

■ 主な取組

- **New!!** 津波避難タワー等、新たな避難場所の確保を行います。
- **New!!** 地区防災計画の策定支援を行います。地域での出前講座などの機会を利用し、計画の必要性を伝え、より多くの地区に着手いただけるよう啓発に努めます。
- **New!!** 関係部局と連携し、感染症対策を盛り込んだ避難所運営マニュアル等を作成し、備蓄品の拡充を行い災害の備えとします。 **感染症**
- 市民一人ひとりの防災意識を高めるため、「防災の日」の制定など様々な防災啓発に取り組めます。
- 地域の「共助」の仕組みを構築するため、自主防災組織と消防団が連携し、地域防災体制を強化します。
- 地震や津波から市民の命を守るため、住宅の耐震化など地震対策の強化を行います。
- 避難行動要支援者名簿の避難支援等関係者への提供を進め、要支援者への支援体制の構築を進めます。 **超高齢**
- 緊急時には、避難所開設情報を防災無線等で情報提供するとともに、電気や水道等のライフライン情報等については、市ホームページにて情報発信を行います。

■ 関連計画

- 松阪市地域防災計画
- 松阪市国土強靱化地域計画
- 松阪市国民保護計画
- 松阪市耐震改修促進計画
- 松阪市津波避難計画

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
災害に対する備えをしている市民の割合	41.4%	50.0%	
市の防災対策への市民満足度	2.82/5	3.00/5	
木造住宅耐震診断の受診割合(累計)	26.7%	40.0%	
地区防災計画の策定(累計)	5地区/43地区	22地区/43地区	

市民ができること

- ◆ 地域の防災訓練等、自主防災活動へ積極的に参加しましょう。
- ◆ 住宅の耐震化や避難経路の確認、備蓄品の確保など、自らを守る防災対策をしましょう。

■ 超高齢社会に向けた視点

- 超高齢社会では、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯の割合が増えるとともに、要介護者が増加することが考えられます。
これまで災害時に犠牲となる多くは、避難行動要支援者といわれる高齢者や障がいのある方々でした。
そのため、避難行動要支援者への意向確認等を行い、情報を提供することで予め地域で把握し、地域の最小単位の中で、避難支援や安否確認等を行うことができる仕組みづくりを進める必要があります。

5. 安全・安心な生活

防犯・防災

④ 消防力の充実

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

災害による犠牲者ゼロ

大規模災害等に備えるため、地域に密着している消防団を中核とした防災体制を強化し、災害による犠牲者ゼロをめざします。

■ 現 状

- 近年、台風や豪雨等の自然災害が多発し、市民生活に大きな影響を及ぼしています。
- 地域防災の要として、多様な災害対応を求められています。
- 消防団員数が定数に達していません。

■ 課 題

- 大規模災害にそなえた資機材や耐震性貯水槽などの整備が必要です。
- 老朽化した消防団車庫や消防車両を計画的に更新していく必要があります。
- 円滑な消防団活動のためには、消防団員が勤務する事業所の理解と協力が必要です。
- 消防団員を確保するとともに、地域に応じて必要な団員数を配置するため、組織の再編も含めた検討が必要です。

■ 主な取組

New!! 防災資機材等の備蓄やヘリポート等を備えた防災拠点の整備について検討します。

- 資機材の整備を進め、消防団を中核とした防災体制の強化を図ります。
- 耐震性貯水槽を計画的に設置・更新していきます。
- 消防団員が活動しやすい環境を整備するため、消防団協力事業所の認定を進めます。
- 消防団員を適正配置するため、現団員数を確保しつつ組織の再編について検討を進めます。
- 新型コロナウイルス感染症対策として消毒液等の感染対策物品を各消防団車庫に配置するとともに、業務継続計画や感染予防対策を消防団員へ周知徹底します。 **感染症**

■ 関連計画

- 松阪市地域防災計画
- 松阪市国民保護計画

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
消防団員数	1,293人	1,293人	→
消防団協力事業所の認定数	30事業所	34事業所	↗
耐震性貯水槽数	157基	161基	↗

市民ができること

- ◆ 自治会や自主防災組織が実施する防災訓練等へ参加しましょう。
- ◆ 消防団へ入団しましょう。

5. 安全・安心な生活

防犯・防災

⑤ 浸水対策の充実

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

総合雨水対策による床上浸水被害ゼロ

中小河川の改修や市街地の雨水対策の推進及び、排水ポンプや樋門の適正な管理、運転など、総合的な雨水対策によって浸水被害から市民を守り、安全・安心なまちをめざします。

■ 現 状

- 近年、市内において、時間雨量50ミリを超える集中豪雨の増加や台風の大型化が懸念されており、2015（H27）年は17件、2017（H29）年は54件の床上浸水が発生しています。
- 雨水排水ポンプ場には、今後、老朽化する施設が数多くありますが、適正な運転ができる状態を維持するために、計画に基づく、定期的な更新や修繕を行う必要があります。

■ 課 題

- 浸水被害の軽減に向け、河川改修と雨水排水対策の総合的な整備を進める必要があります。
- 老朽化が進む雨水排水ポンプ場施設を計画的に改築・更新する必要があります。

■ 主な取組

- 河川改修による堤防・護岸の整備、河道に堆積する土砂の撤去などの整備を行います。
- 雨水排水ポンプの改築・更新、雨水排水路の整備を計画的に進めます。
- 県と協力して、三渡川、百々川、名古須川、愛宕川流域の床上浸水被害ゼロをめざします。

■ 関連計画

- 松阪市地域防災計画
- 松阪市国土強靱化地域計画
- 松阪市都市計画マスタープラン
- 松阪市公共施設等総合管理計画

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
浸水対策事業に対する市民満足度	2.77/5	2.90/5	
排水ポンプ及び樋門(15施設)の大雨時の稼働率	100%	100%	

市民ができること

- ◆ 家屋の浸水が予測される時は、事前に土のうなどを準備しましょう。
- ◆ ハザードマップを見て、事前に浸水危険箇所や避難場所の確認をしましょう。
- ◆ 宅地及び事業所敷地内に雨水浸透施設等を設置し、雨水の流出抑制を図りましょう。